

上山みらいの学校づくり意見交換会で出された主な意見（総括）

1 概要

(1) 開催回数 23 回（保育園・認定こども園、小中学校、地区公民館）

(2) 参加人数 188 人

①保育園・認定こども園 57 人

②小学校・中学校 49 人

③地区公民館 82 人

(3) アンケート数 71 件

会場での配付・記入による回収の他に、二次元コードからの回答環境を準備。

また、説明会不参加の方向けに①市 HP への掲載、②児童・生徒所属施設から一斉配信による周知を実施。二次元コードからの回答環境を準備。

(4) 主な意見のキーワード・内容

次ページ P2～P6 に記載。大きく 4 テーマ・24 項目に分類

緑 教育内容 (1) ～ (8) ※ 2 つの諮問事項 ソフト・ハードに分類

黒 学校統合・大集団を望む (9) ～ (15)

赤 学校現状維持・小集団を望む (16) ～ (19)

青 その他の意見 (20) ～ (24)

(5) 意見交換会で出された意見（施設每一覧）

資料 2 ②施設每一覧 参照 ※当日、説明は割愛します。事前確認をお願いします。

なお、**資料 2 ①・②**は、今回の諮問（教育内容）に関わるご意見を抜粋したものです。
直接的に関わらないものは、**資料 2 ③**に記載しておりますのでご承知おきください。

資料 2 ③教育（その他）、教育施策以外のご意見

※当日、説明は割愛します。事前確認をお願いします。

2 主な意見のキーワード・内容

資料 2 ② 緑色文字 教育内容（ソフト・ハード）

全会場で教育内容について多くの意見をいただいた。理由等は以下のとおり

教育内容・ソフト 諮問 1 「未来に夢と志がもてる魅力ある学校づくり」に関連

（1）豊かな人間形成

① 郷土愛の育成

上山に残りたい、戻りたい、応援したいと思える郷土愛を育む教育が大事

② 交流（世代間、学校間、外国）

校内、地域との世代間交流や学校間の交流、外国との交流を増やすことで、子どもたちに、多様性が育まれると思う。

③ 安全・安心・笑顔・ワクワク

学力はもちろん、安全・安心で、子ども達が笑顔で楽しく通えることが大前提。子、保護者、教員、行政職員、みんなが過度な負担のない運営で、先生たちが働きやすい環境である事が、子にとっても良い環境になり、人間性を育むと思う。

（2）地域との協創

① 地域・市民参加型の教育

地域・市民参加型の教育（例 上小応援団）はとても良い事。学校はもっと参加・協力を求めて欲しい。子ども達も地域の一員と感じられる教育・指導をお願いしたい。

② 地域特性・独自性のある教育・体験活動

上山の学校・地域でしか学べない特別授業や学習環境の良さなど、他のまちには無い特化した魅力が必要。また、様々な体験を通して、人間として成長できる場であることが大切。

（3）学力向上・学習環境

① 時代の変化への対応（デジタル化・グローバル化）

現状に満足せずに、失敗を恐れずに試行錯誤していく教育であってほしい。英語教育は、実践の場を設けるとともに、英語嫌いをにつくらず、是非進めて欲しい。個に応じた能力を伸ばす時代にあった教育環境を整備してほしい。

② 学び合える環境

ある程度の人数でお互いの考えを出し合い、交流することで学び合える環境が必要。

③ 専門的な授業の提供

中学校はある程度の教員数は必要であり、専門教科の教師を確保する必要がある。

④ 誰一人残さない教育（インクルーシブ・ウェルビーイング）

不登校対策として、学びの多様化学校の創設・充実は大事な事。また、特別支援教育の充実、いじめへの対応など、誰も取り残さない学校教育をして欲しい。

(4) 部活動

部活動の選択肢・人数の確保など、様々な経験を通し、現在と将来に、子どものやりたい事を選択できる学校。文化・スポーツにも積極的に取り組んでいける。選択肢を幅広く子ども達に示せる学校を望む。

(5) 学校、学年、学級の数・規模

① 大規模校について

大人数・大きな集団生活となることで、社会性や協調性が育まれる。多くの関わり合いの中でつらいことも含めて切磋琢磨し、たくましくなる。一方で、不登校の増加や人間関係が複雑なことは懸念される。

② 小規模校について

少人数のため教師との距離が近く、きめ細かに指導をしていただくことが可能となる。地域に根差した体験が多くできる。ただし、進学し大きな学校に行った時にうまく適応できるかが不安。

学校施設・ハード 諮問 2 「時代に対応した教育環境整備の推進」に関連

(6) 教育 ICT

将来のことを考えてデジタル活用能力を育成するようにしてほしい。これからの時代の学校には必要な設備。学校の授業においても、学校同士をつないでのオンライン授業をするなど活用できるのではないかな。

(7) 市民全員が利用する施設・防災

① 市民の利用・共創空間

市民に開かれた施設になるとよい。ただ、開くことでセキュリティの面で心配されることのないよう検討する必要がある。

② 防災設備としての学校（避難所機能）

防災拠点としての学校について、休校施設では、避難所のスムーズな開設・運営が難しいと思う反面、近年の自然災害では、学校が避難所となったことで、学校運営に支障をきたす事例もあった。人口減少が進むなか、防災拠点施設の在り方を検討して欲しい。

(8) 老朽化対策、長寿命化・新設

現行の学校の築年数を見ると老朽化が著しい。学校によって不公平感のないように整備してほしい。長寿命化は、建物的にも市の財政的にも限界がある。すべての学校を維持・更新するのも難しいので、コスト面を含めて検討して欲しい。

資料 2 ② 黒色文字 学校統合・大きい集団を望む意見

全会場で、学校統合・大きい集団を望む多くの意見が寄せられた。理由等は以下のとおり

(9) 統計データからの理解・新時代への対応

少子高齢化、生産年齢人口の減少、学校毎の児童・生徒推移、施設老朽化等のデータを見る限り学校統合の必要性は明らか。子ども達が、デジタル化・グローバル化等の加速度的に変化する新時代に対応できるよう魅力ある学校施設環境の充実を望む。

(10) 教育の質の確保

ICT・オンラインが普及しても、学校教育には、一定の児童・生徒数が集団で学習・生活を共にする事が大切。切磋琢磨できる環境や、複式学級の解消、中学校での教科担任の確保、選択肢のある集団活動や部活動ができるように学校を統合して欲しい。

(11) 社会性・協調性の育成、経験則

子どもには進学に応じて、たくさんの友人・大人との関わりが必要。楽しい・辛いの両方を経験して成長して欲しい。保育園より少ない数人の学年では、性別の偏り、コミュニケーション能力の懸念や、クラス替えもなく9年間固定化した人間関係の継続、大きい集団に入った時のギャップに苦労した実体験を踏まえ、統合を検討して欲しい。

(12) 学校と地域との共創

各地域・各学校で頑張り続けるのは限界。学校を統合し学校所在地域だけでなく、上山全体を1つの地域「オール上山」として、全地域が統合した学校を支える体制が望ましい。また、地域の人が学校に関われる、集える拠点施設の併設を考えて欲しい。

(13) 市の財政状況・老朽化への対応

生産年齢人口が減るなか市の財政にも限りがある。老朽化対策として全学校を維持・建替するのは現実的ではない。学校を存続した場合と統合した場合のコストを踏まえ検討を進めるべき。維持管理節減、投資の集中など無駄のない行政運営をして欲しい。

(14) 部活動の在り方

現在部活動について任意化、地域化が進められてはいるが、今の学校規模では選択肢がない状況。やりたいことができないという状況は避けたい。子どもの可能性を広げるためにも、人数の確保できる学校規模にする必要がある。

(15) 検討の進め方

状況は劇的に変化するので、早急に統合の議論をするべき。10年先ではなく、より先(15～20年)を見据え、子ども達のために小・中学校を各1校に統合するなど一気に進めることも検討して欲しい。

市が主導して計画案を示さないと議論が進まないなので、統合までのスケジュールを示しプロセスを大事にして欲しい。安全な通学方法や、事前交流の充実を検討して欲しい。

少数だが、小学校は現在の学校の維持を希望する声もあった。ただし、中学校については部活動等の取組からも 1 校を望む声が多かった。理由等は以下のとおり。

(16) 小規模校ならではのきめ細やかさ

先生の目が行き届いており、子どもが楽しそう。小学校の人数は小規模もいいと思う。現在の学校（中川小・宮川小）でも魅力ある学校だと思う。

子どもの数も減少するが、少ない人数だからこそできる、子ども一人ひとりに寄り添った学校になっていくと良い。少人数になることもポジティブに考えられれば良い。

小規模校が存続し、他校と合同学習で専門教科の授業を受けたり、オンラインを活用して 1 学年 10 人未満でも運営できる学校づくりを考えて欲しい。

(17) 経験則

経験上、学校・学級の規模は人格形成、教育レベルにあまり関係がないと思う。小規模校のほうが、師弟間の距離が近く、交友にも恵まれた。

人数が少なくても様々な経験をすることで魅力ある活動はできると思う。複式学級は良い経験で自信になった。統合し人数が増えることだけが良いとは思わない。

ただし、中学校では部活動も選択できない状況なので、中学校の統合は仕方がないと思う。

(18) 地域との関係

地域で子どもを育てることは大切。小学校は地域に残してもらいたい。分校など僻地学校に魅力を感じる。少子化は大きな問題だろうか。

(19) 国基準・制度の見直し①（小規模校について）

学びの多様化学校の規模を考えれば、小規模校のまま残す考えがあってもよいのではないか。国の学校・学級の人数基準が地方の実情に合っていない。

国の基準（学級数、教師配置、スクールバス運用）を見直す働きかけや市独自の取組をお願いしたい。

(20) 当事者意識の醸成

今後の劇的な社会変化や、少子化の進行が想像以上に進んでおり、子の将来を考える良い機会になった。内容は良かったが、「自分ごと」として捉え参加する方が少なかった。大事なことなので、当事者意識の醸成、情報提供方法等を含め、改めて意見を聞く機会を設けて欲しい。

(21) 子ども・先生の意見

多様な価値感が認められる時代なので子どもたちの意見や学校現場を担う先生方の意見も聞いて欲しい。

一方で、子ども達は、現在の環境しか分からないので、保護者が子どもと話したうえで意見を出せば良いとの意見や、過去の統合経緯からも、満場一致での合意形成は難しい。地域の意見よりも学校に在籍する、これから小中学校の保護者となる方の意見を大事にして進めて欲しいとの意見があった。

(22) 国基準・制度の見直し②（学区制について）

統合した場合の学区選択や、現在のみはらしの丘居住者の学区等について意見を聞いて欲しい。また、国の基準（学級数、教師配置、スクールバス運用）を見直す働きかけや市独自の取組をお願いしたい。

(23) 施設の老朽化・防災拠点機能

老朽化による学校間格差、不公平はないようにしてほしい。また、防災拠点について休校施設では、避難所のスムーズな開設・運営が難しいと思う反面、近年の自然災害では、学校が避難所となったことで、学校運営に支障をきたす事例もあった。人口減少が進むなか、防災拠点施設の在り方を検討して欲しい。

(24) 子育て支援の充実・金銭的給付

子育てに係る金銭面で、保護者負担（給食費、PTA 会費等）が軽減されればありがたい。反面、経過とともに無償化が当然となり、一過性の魅力で終わってしまう気もする。